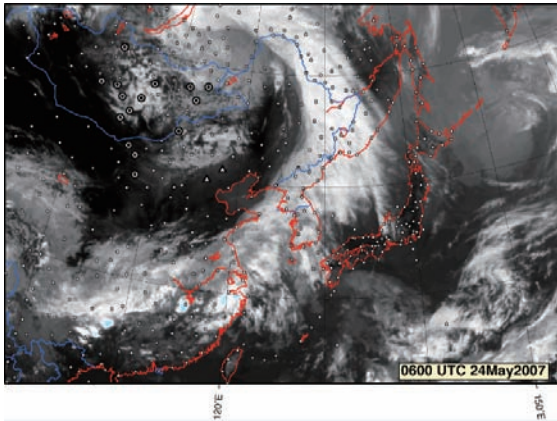
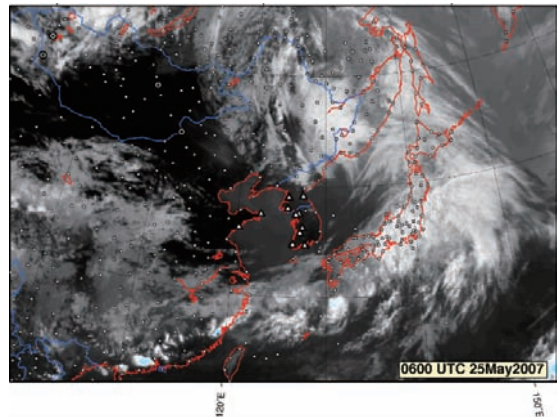


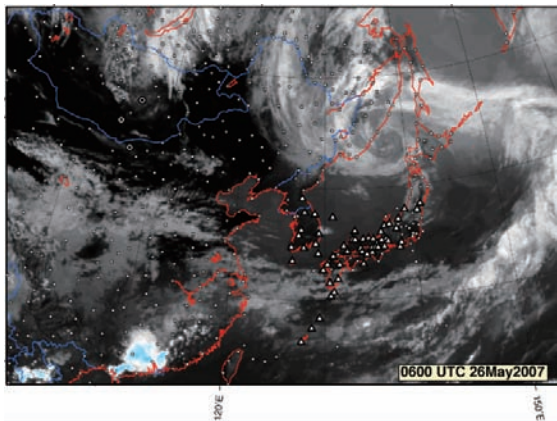
Day -2



Day -1



Day 0



Day +1

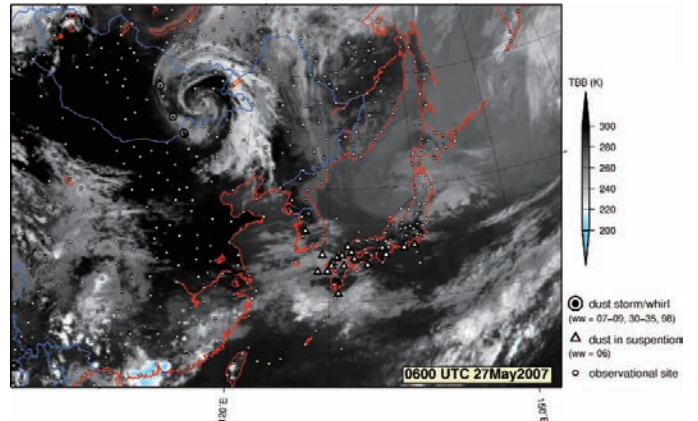


図 42 黄砂飛来期間前後の運輸多目的衛星 MTSAT-1R の赤外 1 チャンネル等価黒体温度 (equivalent black-body temperature; 陰影部) および地上気象観測点における現在天気、砂塵嵐 (二重丸)・浮遊塵 (三角) を観測した地点 (2007 年 5 月 24 日~5 月 27 日 15 JST (06 UTC))

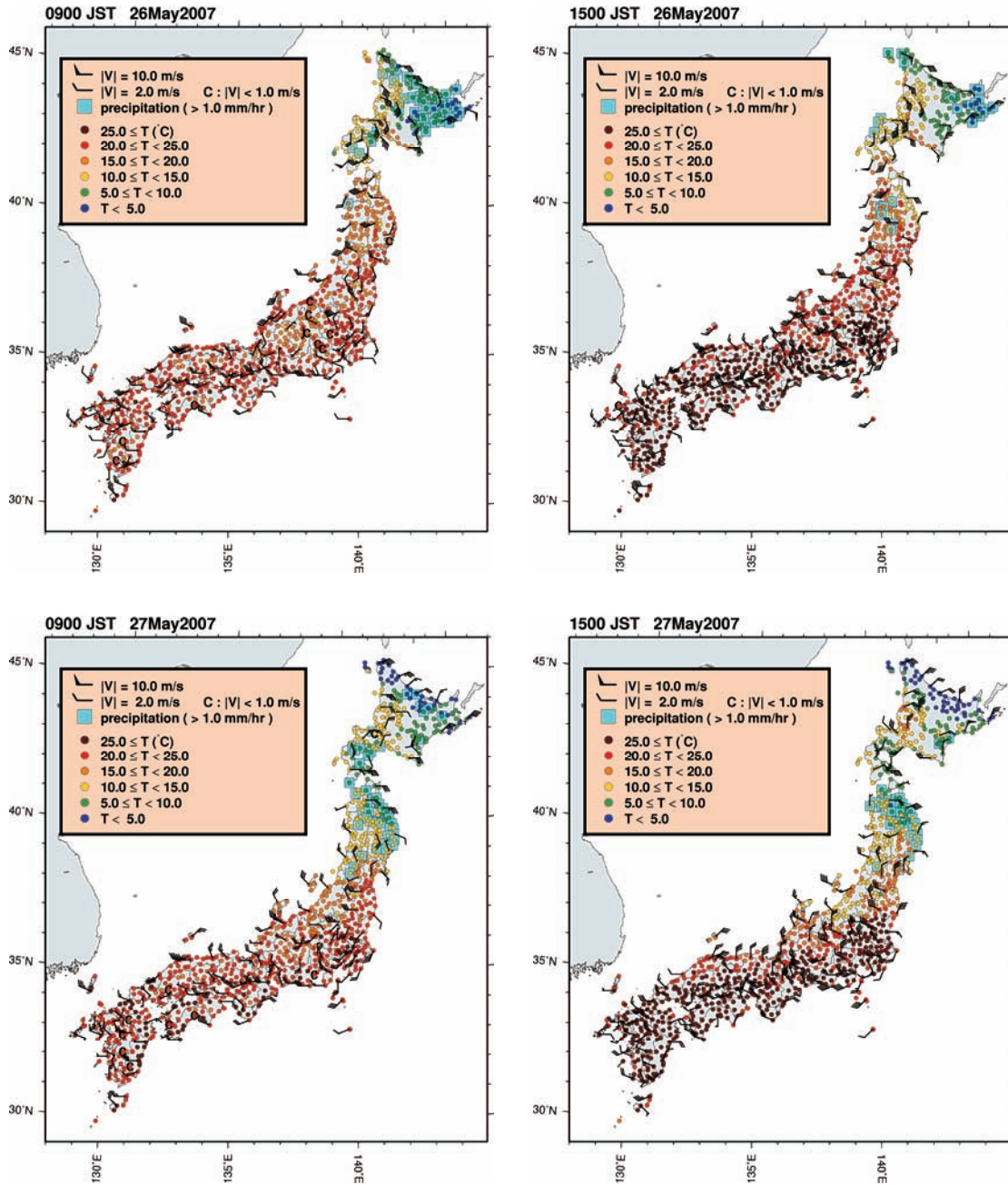


図 43 気象庁地域気象観測システム Automated Meteorological Data Acquisition System (AMeDAS) による気温 (色つき丸印)、風向風速 (矢羽、気象台・測候所のみ)、降水 (1mm/hour 以上のみ、水色の四角) (2007年5月8日、9日の 09 JST (00 UTC) および 15 JST (06 UTC))

(2) 大気汚染物質の動態

図 44 に 2007 年 5 月 26 日から 27 日にかけての格子平均 SPM 濃度の空間分布を示した。図から、2007 年 5 月 26 日の 15JST では、図 42 の浮遊塵の観測地点分布と同様に九州地方から東北地方南部にかけて SPM 高濃度域が広がっている。SPM 濃度の極大は、測定局濃度で $200 \mu\text{g}/\text{m}^3$ 程度で、黄砂飛来に伴うと思われる SPM 濃度上昇を期間中に 2 回観測している。1 回目は、5 月 26 日に九州北部から近畿、中部地方までである。2 回目は、5 月 27 日に九州から中国及び四国の西部（瀬戸内海沿岸）が中心となっている。これら 2 回の SPM 濃度上昇時の空間分布の変化と、図 42 の浮遊塵の観測地点の分布は、非常によく対応している。

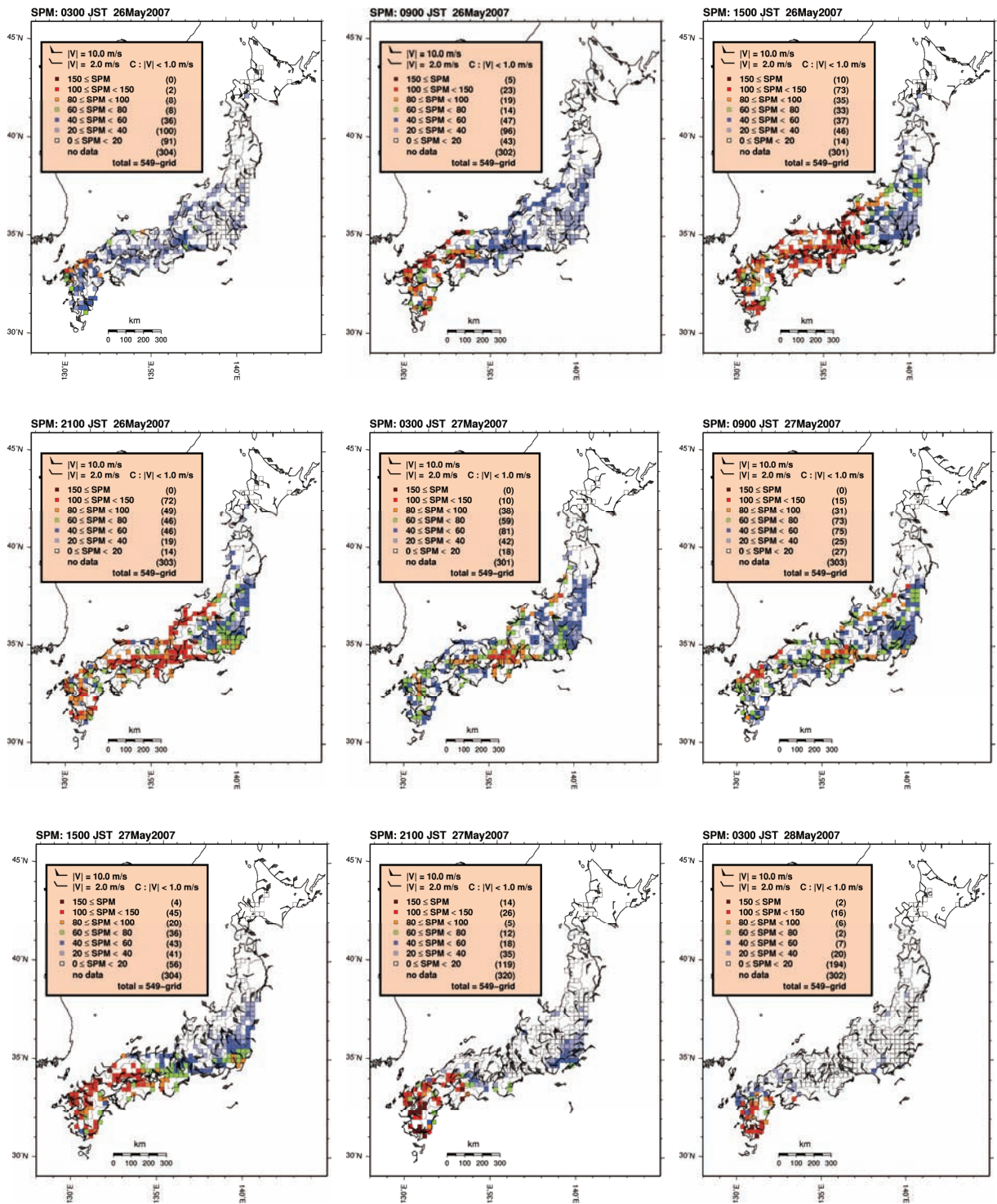


図 44 格子平均 SPM 濃度の空間分布 (2007 年 5 月 26 日の 03JST から 5 月 28 日 03JST)